

**授業概要**

本講義では、人間の「こころ」の仕組みを明らかにするための方法論について解説する。講師から解説するだけでなく、受講者自身にも実際に手を動かしてもらいながら、実験や調査の方法を体得してもらうことを目指す。卒業研究などで心理学的なアプローチから研究をしてみたい人や、心理学の研究法に興味のある人の受講を歓迎する。

**授業計画**

|        |                        |
|--------|------------------------|
| 第 1 回  | ガイダンス                  |
| 第 2 回  | 心理学研究法の概説              |
| 第 3 回  | 演習① 知覚の実験：問題と目的・方法の確認  |
| 第 4 回  | 演習① 知覚の実験：実験の実施        |
| 第 5 回  | 演習① 知覚の実験：データの分析と考察    |
| 第 6 回  | 演習② 記憶の実験：問題と目的・方法の確認  |
| 第 7 回  | 演習② 記憶の実験：実験の実施        |
| 第 8 回  | 演習② 記憶の実験：データの分析と考察    |
| 第 9 回  | 演習③ 社会性の実験：問題と目的・方法の確認 |
| 第 10 回 | 演習③ 社会性の実験：実験の実施       |
| 第 11 回 | 演習③ 社会性の実験：データの分析と考察   |
| 第 12 回 | 演習④ 質問紙調査：問題と目的・方法の確認  |
| 第 13 回 | 演習④ 質問紙調査：調査の実施        |
| 第 14 回 | 演習④ 質問紙調査：データの分析と考察    |
| 第 15 回 | まとめと振り返り               |
| 第 16 回 | 筆記試験                   |

※受講生の興味関心や進度に応じて、一部変更する場合があります。

**到達目標**

- ・心理学研究がどのような方法で行われているのかを理解する。
- ・心理学の研究法に則して実験や調査の追試を行い、データを適切に分析・解釈できるようになる。

**履修上の注意**

授業中は、講師からの説明だけでなく、受講者同士での話し合いや活動の機会を多く設ける。他の受講生とも協力しながら、主体的に授業に参加することを求める。また、コンピュータを用いて分析するため、情報機器の操作に慣れていることが望ましい。

**予習・復習**

予習：指定した教材に目を通し、疑問点やもっとよく知りたい点を考えておくこと。  
復習：授業で学習した内容について、分かった点やまだよく分からない点をまとめておくこと。  
(予習や復習を通じて出てきた疑問点については、授業内でフィードバックを行う)

**評価方法**

学期末試験 50%、授業内レポート 40%、受講態度 10%  
※新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、学期末試験をレポートに変更する可能性もある。

**テキスト**

教科書は特に指定せず、毎回の授業時に適宜教材を配布する。

参考書：

『よくわかる心理学実験実習』村上香奈・山崎浩一 ミネルヴァ書房